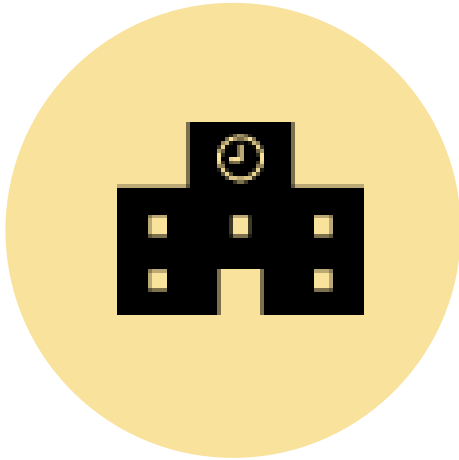


小学校の学びを生かし、長期的視点立った これからの中学校の授業づくり

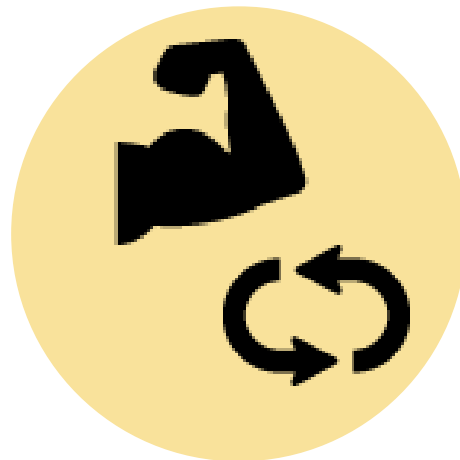
三鷹市立第一中学校 主任教諭 田中 佳奈

小学校の学びを生かし、長期的視点に立った これからの中学校の授業づくり



生かす

小学校で学習した
内容、学び方、
生徒の興味・関心、
スキーマを生かす



挑戦する

間違いを恐れず、
既習事項を活用
することを積極的
に促す



考える場面をつくる

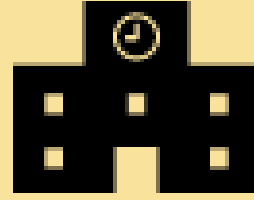
目的・場面・状況
に合わせた即興的な
やり取りの機会を
設ける

授業者にとっての長期的視点とは…

- 今日学習したことは、すぐには定着しないという考え
だからこそ繰り返し何度も場面を変えてトレーニングさせる工夫
- 必ずerrorの段階を経て、習得していくという認識
- 今日できなくても、繰り返し何度も学習の機会を与えることで
必ずできるようになるという視野をもつこと
- 単元、学期、学年、中学校3年間、その先の学習というスパンで
の達成目標をあらかじめ設定した上で授業計画を行うこと
- 成長の経緯を見取り、出来るようになったことに目を向けること

生かす

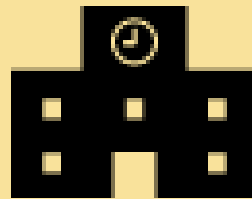
小学校で学習した内容、学び方、
生徒の興味・関心、スキーマを生かす



- ①小学校で触れた音声でのインプットを最大限活用する
→音での理解、イメージを知識・技能に結びつける
- ②ペアワーク、グループワーク、全体での発表経験を継続させる
→常に相手意識をもち、コミュニケーション経験の中で言語構造・機能に気づかせる
- ③生徒にとっての身近な話題の知識を生かし、自分のこととして考えさせる
→小学校での体験などに触れ、生徒自身の考えを発信させる

生かす

小学校で学習した内容、学び方、
生徒の興味・関心、スキーマを生かす



小学校で「何を」「どのように」学習しているかを中学校側が知る（連携）



classroom Englishや学習内容を活用することで生徒の負担軽減とスキーマ活用



学力差を受け止めながら、言語習得のプロセスに則った長期的視点をもつ

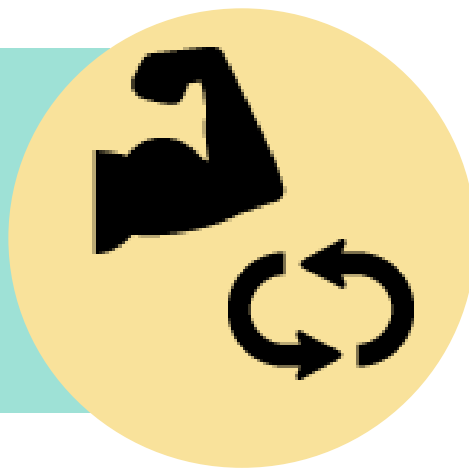


input … intake… try… error … feedback (recast) … try … output
(足場かけ) を繰り返し習得に向かう

- ・ 言えなかったことを、どう言ったらよかったのかをクラス全体へと共有
- ・ 良い例をクラス全体で共有 「あ～、そう言えばよかったのか！」
- ・ 共有したことを用いて再度やり取りをする

挑戦する

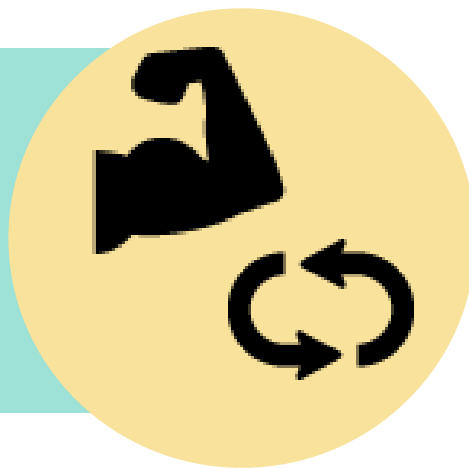
間違いを恐れず、既習事項を活用することを積極的に促す



- ①意味をとらえるときの曖昧さに耐える姿勢を習慣づける
→音やイメージ・状況で意味をとらえる小学校での学びをここでも生かす
- ②自分が知っている言葉・知識でなんとか表現してみよう、を促す
→もっとシンプルに表現できないだろうか？というフィードバック
- ③難しいことを表現するのではなく、今まで学んだ知識の中から探らせる
→学び＝貯金 という概念のもと、引き出しから必要な材料を取り出す
貯金したものを使える状況(すぐ引き出せる状況)にする

挑戦する

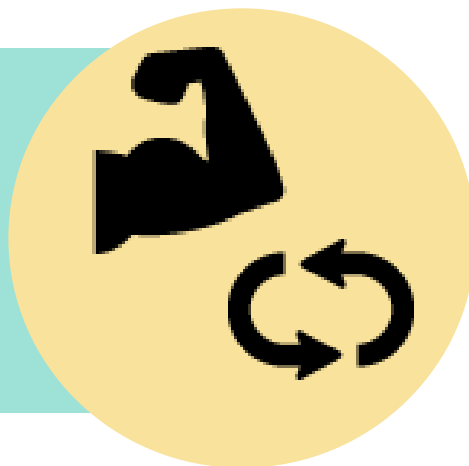
間違いを恐れず、既習事項を活用することを積極的に促す



- ・ errorをマイナスに捉えないための人間関係づくりのための授業規律を保つ
- ・ 言語習得には時間がかかることの生徒と教師の共通認識を図る
- ・ 新しいことをやってみたからこそそのerror、必要な段階であり進化しているという認識を定着させる
- ・ 生徒が「う～ん」と頭を働かせるstruggle体験とfeedbackを大切にする
- ・ 小学校、中学校での学びの中から使える材料を必要な場面で出す訓練を繰り返す
- ・ 単元ごとの学習ではなく積み重ねていく教科だからこそ、繰り返し学習をする

挑戦する

間違いを恐れず、既習事項を活用することを積極的に促す



errorをマイナスに捉えないための人間関係づくりのための授業規律のために挑戦
わからなくても、まずやってみる

ヘルプを出す

出来なかったら先生や友達に聞いてみる

必要段階としてのerror

人のerrorを絶対に笑ったり、からかわない
ミスとは捉えない
errorができる段階の人は成長中、という概念を伝える
「間違えてくれたからみんなで学べる」という発想

相互補助

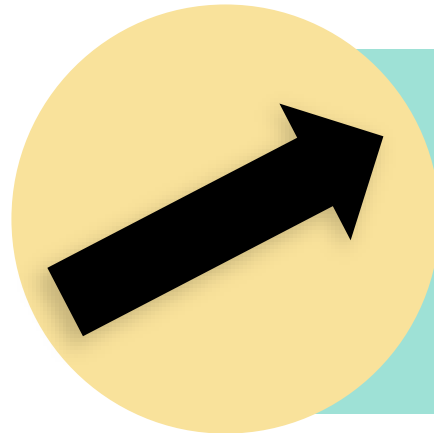
クラスメイトは協働学習者という授業の根本を共有する
信頼しあえる関係性の上に、自己表現のための指導が可能に

考える場面をつくる

目的・場面・状況に合わせた即興的な
やり取りの機会を設ける



- ①読み・聞きした内容について常に自分の考えをもつためのやり取りを常に
設定する授業づくり
→単元のゴールを共有し、そこに向かってバックワードデザインをする
- ②いつも型やモデルを与えるのではなく、まずやらせてみる
→その場で考えたり、学習内容を引用し自分の意見や考えを伝え合うこと
を習慣づける
- ③答えが1つではないことに取り組む
→既習事項を活用する必要性・場面を生み出す…即興性を育む
即興性とは、知識の活用のもと、相手に伝えるための手段



つなげる

小学校の学びを生かし、中学校の知識・表現力を高校の発展的な学習へつなげる

interactionを中心にした言語活動を繰り返すことで身につけたい知識・技能

- ①的確にたずねるための質問力 …基礎的な文法を操る技能
- ②まとまった内容を伝えるための発信力 …ドリルでは身につかない部分の思考力
- ③自分のことばで話すための即興的発話力…自分の意見をもち言葉を紡ぐ能力
- ④妥当な理由を添えて相手を納得させるための論理性…Why?に対し、考える習慣
- ⑤テーマから逸れずにやり取りをつないでいくための展開力…聞く力、反応する力

生徒の変容

間違うのはだめなこと、という発想から・・・

- ・ 正解のない問に対して、果敢に考え、自分の言葉で表現しようとする意欲・姿勢の向上
- ・ 今までの学習内容を活用することがいかに価値が高いかを実感し、クラスメイトのそうした発言や発想力を評価するクラスの雰囲気醸成
- ・ 何事もペア・グループで取り組む基盤の下、自分たちでなんとか教え合い、考える姿勢の定着
- ・ クラスメイトのerrorを批判することなく、自分のこととして再度捉え直す学習意欲の向上
- ・ 違うかもしれないけれど、なんとか自分で考えて言ってみよう、というチャレンジ精神の習得
- ・ そこにerrorが生じた際、落ち込むのではなく、あ～、そっか！と発見する前向きな捉え方の定着
- ・ 授業で発話をした後のwritingを継続したことで、常にテーマに対して自分が本当に考え、感じたことを表現してきた → まとまった量の発信力と話す・書く力の飛躍的な向上

今後の展望

今後、目指す生徒像 英語を使ってできるようにしたいこと

相手意識をもち、
コミュニケーションを
諦めない態度の育成

他者とよりよく関わろう
とする意欲の向上

1

配慮の心

未知の内容の曖昧さに
耐えつつ、推測して理
解しようとし、わかる
まで取り組むという
自ら学ぶ姿勢の育成

2

継続の力

これまでの学びを
生かし続け、他者
と良好な人間関係
を構築するための
言語能力習得と、
その向上

3

人生を豊かに
する力